

「第2期 あかし教育プラン（明石市教育振興基本計画）」素案への意見募集結果について

「第2期 あかし教育プラン（明石市教育振興基本計画）」素案についての意見募集（平成27年12月16日～平成28年1月15日）を行ったところ、25件（9名）のご意見が寄せられました。お寄せいただいたご意見の概要と、それに対する市の考え方は次のとおりです。

なお、提出していただいたご意見は、主旨を損なわないように要約しています。また、「第2期 あかし教育プラン（明石市教育振興基本計画）」に直接関連しないご意見については、担当課に伝えておりません。

No	意見の概要	市の考え方
1	<p>第3章 2 基本方針</p> <p>(1) 一人ひとりに応じたきめ細やかな教育の充実</p> <p>「人も物も大切にする心の教育の充実」を別に挙げてもらいたい。豊かな心を育てることに力を入れていくことを強調する必要があるのではないか。</p>	<p>ご指摘の内容について、「人も物も大切にする心の教育の充実」は大変重要と認識しておりますので、3つの基本方針に対する9つの基本的な方策の中に「豊かな心の育成」を挙げております。</p>
2	<p>第4章</p> <p>全ての基本的な方策について、計画を立てて終わりではなく、繰り返し子どもの成長を検証し、見直しをすることが重要ではないか。</p>	<p>ご指摘の内容については、教育プランに基づく具体的な取組（事業）をまとめた「アクションプラン（実行計画）」を毎年度策定し、取組の進捗状況について点検及び評価を実施することで、計画の進行管理を行う予定です。</p>
3	<p>第4章 1 確かな学力の育成</p> <p>放課後に子どもたちに無料の学習支援を行うことで、家庭の負担を軽減し、基礎学力の向上や強化に繋げることができるのではないか。</p> <p>また、確かな学力の育成を図るため、無料で放課後や休日に参加できるような学習教室の拡大、充実の検討もお願いしたい。</p>	<p>本市では、地域人材を活用し、放課後に中学生対象の「数学・英語応援団」、土曜日に小学生対象の「わくわく土曜教室」（平成28年度より「わくわく地域未来塾」）を実施し、学習意欲の向上を図っているところです。</p> <p>今後も、教員OBや地域の方の協力のもと、学習教室を充実させていきます。</p> <p>また、「第2期 あかし教育プラン 第4章 1 確かな学力の育成」について、基本的な方策（学習意欲の向上）を新たに追加します。</p>
4	<p>第4章 1 確かな学力の育成</p> <p>（ことばの力の育成 -読む・聞く・書く・話す-）</p> <p>「子どもたちのコミュニケーション能力」が乏しいと言われる昨今、家庭ぐるみ、学校ぐるみで、コミュニケーション能力の推進を図る取組をお願いしたい。コミュニケーション能力の養成が基</p>	<p>本市では、学校の授業において、グループで話し合ったり、自分の考えをスピーチしたりする言語活動を積極的に取り入れています。</p> <p>また、地域の方や異年齢の人と接する機会（ゲストティーチャー等）を設け、コミュニケーション能力の育成を図る取組も行っており、コミュニ</p>

	本理念の「心豊かな人づくり」の推進に繋がるのではないか。	ケーション能力の養成は「第2期 あかし教育プラン」の基本理念の実現に不可欠であると考えております。
5	第4章 1 確かな学力の育成 (ことばの力の育成 -読む・聞く・書く・話す-) 幼児期において、幼児の話に積極的に耳を傾け、ことばの使い方を具体的に幼児に知らせることは大切と思うが、幼児にかかわる大人が正しいことばを使うことがより重要ではないか。	教師の幼児へのことばの使い方、声掛け等については、正しい言葉を獲得する大切な時期であることを教職員それぞれが自覚しながら配慮するとともに、保育研究等を通して見直しも行うなど、日々振り返りをするようにしています。
6	第4章 1 確かな学力の育成 (就学前教育の充実) 3歳は自己認識が明確化し言葉の発達も伴って、周囲の大人だけでなく同年代の子どもとの関わりを求めるようになる大切な時期であることから、公立幼稚園においても3歳児保育を実施できるよう検討してほしい。 また、子育て家庭への支援として、一時保育システムが充実するよう、検討してほしい。	少子化、核家族化、戸外で気軽に遊べる環境の減少など、子どもを取り巻く状況が変化し、3歳児保育のご要望は、年々高まっていることを認識しているところです。本市では今後、13中学校区に1つ幼稚園を認定こども園にしていくことで、3歳から教育を受けることができる環境を整備していきます。 一時保育については、今年度11園が開設しておりますが、今後も新規の民間の保育園に対して、一時保育の開設を呼び掛け、より充実していくよう進めてまいります。
7	第4章 2 豊かな心の育成 (体験学習の充実) 「学校での行事の充実」についての内容を記載する必要があるのではないか。各学校園で計画されている様々な行事とその取組や活動が子どもたちにいろいろな力をつけており、友達と助け合い協力してひとつのものを創りあげる喜びや達成感など、人間形成にも大きなプラスの影響を与えていると思う。	本市では、学校の体育大会や音楽会、文化祭等、学校行事の取組を通して、子どもたちの主体性や自尊感情を育めるよう指導しています。 また、体験学習の充実や地域の実態に応じた教育活動を通して、子どもたちの健全な人間形成に取り組んでいます。 「第2期 あかし教育プラン 第4章 2 豊かな心の育成」について、基本的な方策(体験学習の充実)を次のとおり修正します。 (現行) 「心の教育」の実践の場として・・・ (修正後) 体育大会や音楽会、文化祭等の学校行事に加え、「心の教育」の実践の場として・・・
8	第4章 2 豊かな心の育成 (子どもの読書活動の推進) 小、中学校の図書室に学校司書をおいて欲しい	本市では、12学級以上の学校には、司書教諭を配置しており、子どもの読書活動を推進しております。

	と考えており、検討してほしい。	
9	<p>第4章 3 健やかな体の育成 (「食」に関する教育の推進) 「中学校給食」についての内容は記載しないのか。</p>	<p>ご指摘の内容については、今後5年間において、「食」に関する教育を推進していくための基本的な考え方を示したものであるため、中学校給食に特化した内容は記載しておりませんでした。</p> <p>現在、中学校給食の導入に向けた準備を進めているところであり、導入後においては中学校でも給食を通じた食育の取組を進めていくことから、毎年度の具体的な取組(事業)をまとめた「アクションプラン(実行計画)」の中で内容を示すとともに、「第2期あかし教育プラン 第4章 3 健やかな体の育成」について、基本的な方策(「食」に関する教育の推進)を次のとおり修正します。</p> <p>(現行)</p> <p>・・・給食においては、地場産物を使用したり、地域の郷土食や行事食を提供するなど給食を生きた教材として活用することで、食育の充実を図ります。</p> <p>(修正後)</p> <p>・・・給食においては、地場産物を使用したり、地域の郷土食や行事食を提供するなど給食を生きた教材として活用することで、食育の充実を図ります。また、中学校給食を実施し、給食の一層の充実に取り組みます。</p>
10	<p>第4章 4 安全・安心の学習環境 (不登校対策の推進) 親の気づき、学校の先生の気づきがポイントになると考えられる中で、家庭の教育環境の厳しさが増しており、よりきめ細やかな親支援を行うとともに、学校においては、若手教員が増える中で教員の力量アップはもちろん若手教員の育成を行ってほしい。学校ぐるみで不登校を出さないという強い決意のもと、具体的な取組を推進してほしい。</p>	<p>本市では、不登校予防のための早期対応システム「ストップ不登校あかし」の推進等、さまざまな不登校防止のための取組を行っています。</p> <p>ご指摘の内容について、引き続き不登校の未然防止、早期発見、早期対応に向けた学校の取組をさらに充実させるため、研修等を通して教職員の資質の向上を図るとともに、不登校に関する児童生徒や保護者等からの相談にきめ細やかに対応してまいります。</p>
11	<p>第4章 4 安全・安心の学習環境 (就学困難な子どもへの支援) 子どもを持つ貧困家庭の支援を行うことこそ、子どもたちの夢の実現につながるのではないかと。</p>	<p>本市では、経済的な理由のために就学が困難となる小中学生の保護者に対し、教育費の一部を援助する「就学援助制度」を実施する等、子育て家庭の支援としてさまざまな取組を行っています。</p>

		ご指摘の趣旨を踏まえ、今後も具体的な取組の検討を行ってまいります。
12	第4章 5 一人ひとりに応じた教育 (少人数教育の推進) 「学級編成の標準を小集団…」とあるが30人学級とはっきり記載しないのか。	就学前の幼児が、小学校入学時に不安を感じることなく、安心して小学校生活を送れるように、小学校1年生を対象に30人学級編成を導入し、効果を検証していきます。その検証を踏まえて、少人数指導を推進し、きめ細やかな指導を図ります。
13	第4章 5 一人ひとりに応じた教育 (特別支援教育の推進) 介助員配置を希望しているすべての子どもたちについて、適正な配置ができるよう検討してほしい。	特別支援を要する子どもは、年々増加しています。しかし介助員については、配置が限られており、希望している方全てに十分な配置を行うことができていないのが現状です。今後もこのような現状を踏まえ、特別支援を要する子どもが安心して集団生活を送ることができるよう検討していきます。
14	第4章 7 子ども・家庭への支援 (子育て支援の支援) 子育てが不十分な家庭の中に入っていく取組を検討してほしい。	本市では、子育て支援センターや家庭児童相談室での子育て相談のほか、保健師、保育士等が家庭訪問して相談に応える子育て訪問相談や産前産後のヘルパー派遣事業等を行い子育て家庭の不安や孤立の解消を図っています。 ご指摘の趣旨を踏まえ、今後も育児支援の充実に努めてまいります。
15	第4章 7 子ども・家庭への支援 (子育て支援の推進) 共働き家庭への配慮として、預かり保育時間の延長を検討してほしい。	預かり保育については、利用者が増加しており、中でも就労を理由として預かり保育を利用される方が徐々に増えています。今後は、13中学校区に1つ、幼稚園を認定こども園にし、保護者の就労に関わらず、教育・保育が一体的に受けられるように整備していきます。
16	第4章 8 地域・家庭・学校の連携 子どもを「地域で育てる」取組をいっそう推進してほしい。	本市ではこれまでも学校や地域、家庭と一体となって、子どもたちの育ちを支える取組を進めてきましたが、「第2期 あかし教育プラン」においても、基本理念「ふるさと明石から未来にはばたく子どもを育てる ～たくましく心豊かな人づくり～」を実現するための3つの基本方針の中で「地域ぐるみで子どもの健やかな育ちを支える活動の推進を掲げており、引き続き地域ぐるみで子どもたちの健全な育成を支える活動を推進します。

17	<p>第4章 8 地域・家庭・学校の連携 (ふるさと教育の推進)</p> <p>古墳の保存等、ふるさと明石の歴史への理解と愛着が深まるような取組を推進してほしい。</p>	<p>本市ではふるさと明石の歴史や伝統文化への理解と愛着を深められるよう、文化財マップを作成する等、さまざまな取組を進めております。</p> <p>ご指摘の趣旨を踏まえ、今後も古墳の保存等についても具体的な取組の検討を行ってまいります。</p>
18	<p>第4章 8 地域・家庭・学校の連携 (ふるさと教育の推進)</p> <p>明石商業高等学校の取組で、「明石学講座」や地域活動への積極的参加の推進があげられているのは賛同するが、生徒の半数が市外からの通学という明石商業高等学校の取組で効果が期待できるのか疑問を感じる。明石商業高等学校だけでなく、県立であっても市内にある高校全てで行うことや、中学校を対象とした取組を考える方がよいのではないか。</p>	<p>明石商業高等学校の取組は、生徒が市内・市外に在住しているに関わらず、在学している明石のまちについての理解、愛着及び地域との関係を深めることを目的としたものであり、一定の効果があると考えております。</p> <p>今後とも、子どもたちが、いっそう「ふるさと明石」に対する理解や愛着を深め、心豊かに育つことができるよう、地域・家庭・学校がそれぞれの役割を担い、連携した取組を進めます。</p>
19	<p>第4章 8 地域・家庭・学校の連携 (開かれた学校づくり)</p> <p>現在、小学校区単位のまちづくりが進んでいる中、委員数、開催数等、学校評議員会の機能強化について検討してほしい。それにより子ども安全、防災等、多くの分野で地域住民との協働が可能になる。</p>	<p>学校と地域住民の方との協働が、子どもたちの健全育成に大きく関与することは言うまでもありません。また、小学校区単位のまちづくりが進み、学校評議員会の役割の多様性が求められています。今後、各校区の実態に応じて、学校評議員の在り方についても検討してまいります。</p>
20	<p>第4章 8 地域・家庭・学校の連携 (開かれた学校づくり)</p> <p>子どもへの学習支援に一般市民が積極的に参加できるよう、手続きの簡素化を図るとともに、広報紙で、放課後教室等の支援の取組についての情報量を増やして欲しい。</p>	<p>今後とも、地域住民と学校教育の目標を共有化し、協働して取組を進め、地域全体で学校教育を支える開かれた学校づくりを推進できるよう、具体的な取組の検討を行ってまいります。</p>
21	<p>第4章 8 地域・家庭・学校の連携 (開かれた学校づくり)</p> <p>保護者、スクールガード等の活動に参加している者以外は、学校情報の入手が難しいので、公共施設や自治会掲示板を使った情報提供を行ってほしい。</p>	
22	<p>第5章 2 成果目標</p> <p>指標はあるが国や県との比較のみで具体的な数値目標が挙げられていないのではないか。</p>	<p>具体的な数値目標や重点的な取組については、毎年度の具体的な取組(事業)をまとめた「アクションプラン(実行計画)」の中で示す予定とし</p>

23	<p>その他</p> <p>明石市として特に何に重点を置いて取組を進めていくのか明確にした方がよいのではないか。</p>	<p>ております。</p>
24	<p>その他</p> <p>学校等の現場を離れた人や退職者等、地域に眠る人材を活用し、子どもたちに進学を平等に与えられる手厚い支援を行うことで、未来の明石を支える人材育成に力を注いでほしい。</p>	<p>本市の「第2期 あかし教育プラン」では、すべての子どもたちが、その多様な個性や能力を最大限に発揮し、一人ひとりの状況に応じた適切な指導や支援を受けられるよう、また、置かれている環境にかかわらず、安心して学べるよう、「ふるさと明石から未来にはばたく」子どもを育てることを目指した取組を地域ぐるみで進めていきます。</p>
25	<p>その他</p> <p>0～2歳の育ちにおいて、自己の存在に対する確かな自信を獲得できる環境を確保することが、その後の育ちの基礎となるのではないか。</p>	<p>0～2歳については、現在約25%の方が保育所等の保育を受けていますが、残りの約75%は在宅という状況です。したがって0～2歳が育つための環境の充実は、保育所（園）はもちろん、家庭で子育てしている保護者に対しても、様々な形で啓発し、支援していく必要があると考えています。</p>